

未来公共施設の

なぜ、今、複合型新体育館構想なのか？



過去、急激な人口の増加に対応するため各地で一斉に建設された公共施設。老朽化や増大する維持管理費、変化していく利用者ニーズに対応できないなど、これらは全国的な課題となっています。今月号では、市の公共施設について現状と課題を探り、これからの公共施設管理について考えます。

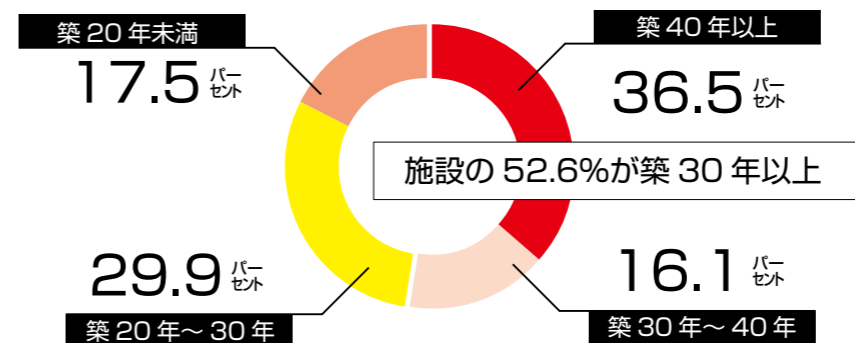
●問=管財課 Tel.23-0222

市公共施設の半数が
築30年以上を経過

高度経済成長期の昭和30年～50年代、人口増加や都市化の進展に伴い、全国の自治体で公共施設やインフラが一斉に整備されました。小林市においても同様で、公共施設の半数以上が、築30年を経過。今後、施設の老朽化が一斉に進み、建て替えや大規模な改修を必要とする時期が集中してやってくる。

これらの築年数の古い施設では、老朽化に加

図1 保有施設（延床面積ベース）築年数別割合



全国平均を大きく上回る公共施設保有量

市営住宅や学校施設を含む市の公共施設は、283施設970棟あり、総延床面積は約27.3万平方メートル。人口1人当

り、総延床面積は約27.3万平方メートル。人口1人当たり

の公共施設をこれまでのどおりの大きさや数で

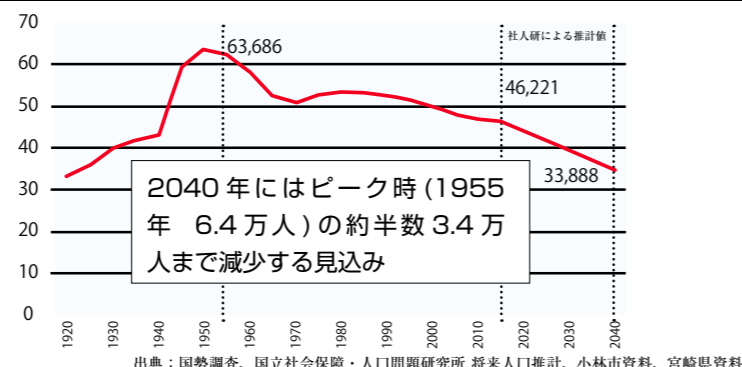
維持しよとすると、利用時の安全性や、機能性を確保するために建て替え、大規模な改修などが必要となり、今後40年間で約950億円の費用がかかることが試算されました。

このままのペースで維持管理は難しい

これを単純に年平均にすると、1年あたりの施設整備にかかる費用は23.8億円となり、市の財政状況を考えると非常に厳しい額となります。

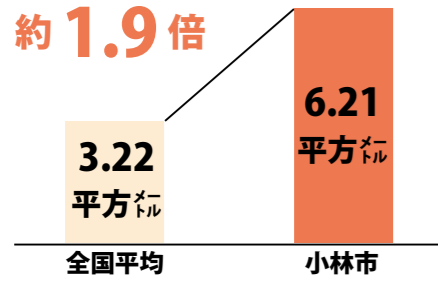
加えて、今後人口減少（図2参照）や、社会保障費が増加することなども予測されるため、公共施設の維持管理に充てる財源確保は、今後更に厳しくなっていくことが想定されます。

図2 年齢3区分別人口の推移と将来推計



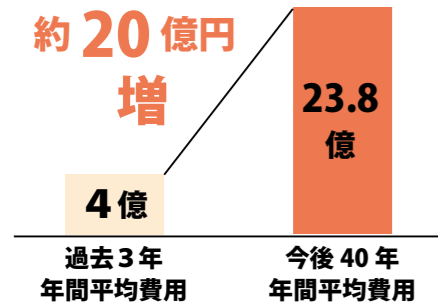
全国平均を大きく上回る公共施設保有量

市民1人当たりの公共施設延べ床面積は、6.21平方メートルで全国平均の約1.9倍です。



施設管理費用の推移予測

単純計算で1人あたり、年間4万5千円の負担増が見込まれます



ここまでのまとめ

- 1 公共施設の多くが今後一斉に更新・改修時期を迎える
- 2 全国平均を大きく上回る施設保有量で財政を圧迫
- 3 人口減少と社会保障費の増加で財源の確保が厳しい

今ある公共施設をこれまでどおり維持していくことは非常に難しい状況です。

市では、次の2つの方針をもとに公共施設を適切に管理していきます。

- 1 施設の長寿命化
- 2 施設の適正配置



老朽化が進む公共施設 (写真は勤労青少年ホーム)

縮充

**面積は縮小させつつも
充実した機能を持たせる**

**施設管理の方針は
長寿命化と適正配置**

公共施設の老朽化や、

人口減少、社会ニーズの変化など、多様な課題を抱えている中でも、公共施設で提供されるサービスの質は確保しなければなりません。

市は、このような状況を踏まえ、公共施設を計画的に保全し、より長く使用する「長寿命化」の推進と、複合化・集約化、

統合・転用・廃止などによる「適正配置」の推進で整備費用の縮減を図る方針を立てています。

**複合型体育館の整備
で経費を縮減**

市は、その方針に基づき新しい公共施設整備の形として、健康づくり機能・子育て支援機能・避難所機能を備えた複合型の新体育館「健幸のまちづくり拠点施設」の建設を計画しました。

この計画は、築48年が経過し、老朽化が進む市民体育館の整備に合わせて、近い将来に老朽化対策で整備が必要となる施設を一つの施設として同時に更新する「複合化」の手法を使うことで、それぞれの施設を単体で整備するよりも費用の縮減を図るといいます。

さまざまな相乗効果を生む施設の複合化

複合化するものは、いずれも築30年から80年程度経過した「市民体育館」、「中央地区体育館」、「新別館（保健センター）」、

新体育館建設予定地の総合運動公園周辺

今後は、このように施設の規模は縮小させつつも、機能性を充実させる「縮充」を積極的に図っていくことを基本に、将来の負担を軽減しながら公共サービスの質を確保していくことに取り組んでいきます。

基本方針2

施設の適正配置

現状に合った「施設の面積や機能」へ見直す

1 集約



同じ利用目的の複数の施設を1か所の施設に集約

2 廃止



利用されていない施設、危険施設を取り壊す

3 規模縮小



一部取り壊しや建て替え時には規模を縮小する

4 転用



利用度の低い施設をニーズに合った利用目的に変更して有効活用する

5 複合化 新体育館の方法

これまで別々にあった機能を1つの建物にまとめることを「複合化」といいます。



複合化して、総合運動公園内に建設

複合化

体育館 + 健康づくり + 子育て支援 + 避難所の機能を持った複合施設

複合化のメリット

- ・機能集約で利便性向上
- ・施設量の圧縮でコスト減
- ・世代間交流の促進 など



基本方針1

長寿命化の推進

「事後保全型」から「計画保全型」の管理へ

1 私たちの公共施設を長く大切に使うために

これまでの老朽化が著しく進んでから膨大な改修費用を投じていた「事後保全型」の管理から、経年劣化で機能・性能の低下が進む前に予防的に保全していく「計画保全型」の管理に移行し、施設をより長く大切に使う「長寿命化」を図ります。

2 計画保全の主な取り組み

①点検・診断の実施

日頃から不具合・異変がないか、これまで以上に継続して、小まめな点検を行います。

②安全確保の実施

点検で明らかになった修繕箇所は早期に修繕し、危険箇所では立入禁止などの処理を行い安全確保を第一に应急处置をします。

③耐震化の実施

「建築物耐震改修促進計画」に基づき耐震診断、耐震改修を進めます。